

様式－3－2

成果報告書の概要

助成番号	研究名	研究者・所属
第4号	利根川洪水と地域防災施設としての「水屋」の研究	学術団体 日本河川開発調査会 宮村 忠
<p>本研究目的は、利根川流域に広く分布する水防施設である「水屋（水塚）」が、過去の水災害対し、どの程度の有効性があったかを調べ、災害時の防災施設としての利活用など具体的な状況などについて研究したものである。</p> <p>利根川流域に広く分布していると「水屋（水塚）」は、一部地域では詳細な調査が行われているが、広域での戸数等の明確な資料は存在していない。</p> <p>そこで「歴史的防災施設＝水屋・水塚」が、どの地域にどの程度が存在するかの所在調査を行い、戸別調査を行い建造年や構造などを調査し、地域特性などについて分析した。</p> <p>また、災害時に重要な「情報伝達」に関する研究も行い、主に古来より情報の伝達手段として利用されてきた「火の見櫓（半鐘）」についても現地調査を行い、「櫓の現状」と「水災害時の地域伝達」についても併せて分析した。</p> <p>研究対象地域（利根川上流部・埼玉県） 熊谷市、行田市、深谷市・本庄市・行田市・羽生市・加須市（旧大利根町、栗橋町）</p> <p>水塚の所在：所在確認を1～3段階に分けて行った。文献・資料による1次調査で地形図などから「水塚」が存在する集落を想定。2次調査にて研究対象地域における「水塚」の所在確認。3次調査で具体的な聞き取りを行った。既存の文献資料を使用し、存在すると思われる「地域」を検討し、</p> <p>現地調査の実施：戸別に家屋の調査を行った。 家屋敷地内における水屋の配置などについて、地域性や特徴があるかについて検証した。</p> <p>他地域との比較：全国にある「水屋（それに類似する水防施設）」について比較検証を行った。事例として淀川流域「段倉」、奈良県「環濠集落」、木曾川流域「輪中集落」などとの比較も行った。</p> <p>水災害時の情報伝達：調査対象地域（埼玉県）における「火の見櫓」について現況調査を行った。都市部では、皆無となった「火の見櫓」について検証した。</p> <p>現地調査などの結果、水屋は、地域により敷地の高さ、蔵の構造、設置場所、屋敷林などに特徴があり、地域の標高（地盤高）や利根川氾濫水が流化する方向などに大きく関係している事がわかった。</p> <p>また、それらの基準となるものは、先人の経験則からなる伝承として現代に受け継がれているとの研究成果を得た。</p>		